

Title	Khoroshikh, P. P. lakuty. (Opyt ukazatelia istoriko-etnographicheskoi literatury o iakutskoi narodnsti.)
Sub Title	ペ・ペ・ホロシツフ「ヤクート族」
Author	小島, 武男(Kojima, Takeo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1931
Jtitle	史学 Vol.10, No.2 (1931. 6) ,p.175(333)- 176(334)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19310600-0175

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ところである。而して、這般の貴族政治の弊害は、ピット等の手に依て、凡て革正せられたのである。

夫れから、筆者はジョージ四世がその王妃カロリンを離婚した有名なる醜聞事件を、本書第二巻に依て参考して見たことがあるが、他の如何なる類書に於けるよりも、比較的簡明に事件の経過及び真相を傳へてゐることを看出したのである。(Vol. II, Bk. I, Chap. II) 次にナポレオン戦役後に於けるイギリスの産業界の混亂、從て國民生活の不安は、今度の世界大戰後に於ける同國の狀態に彷彿たるものがあつた。この時期に於ける莫大なる國債、産業貿易の一時期不振に伴ふ、同國の財政經濟の混亂したる狀態、並にコベット一派によつて熱叫せられた選舉法改革運動の過程は、アレヴィー氏の生彩ある筆致を以て、極めて詳細に描寫せられてゐる。(Ibid. chap. I)

要するに、本書が最も優れたる十九世紀の英國史として、一般歴史研究者に取つては勿論、イギリスの政治、經濟、軍事、教育、宗教、文化その他社會各方面の研究者に取つて、極めて貴重なる參考資料であることは、筆者の喩々を要せざる所である。序でながら、E. I. Watkin 氏の譯文も、原著者が再度まで校閲したところから、十分信憑す可きである。(占部百太郎)

Khoioshikh, P. P. Iakuty. (Opyt ukazatelia
istoriko-etnographicheskoi literatury o iakuts-
koi narodnosti.)

書評

ペ・ペ・ホロシツフ「ヤクート族」

吾々學徒にまつて最も苦痛を感じるときはシベリヤ地方の歴史——土俗學關係の文献の非常に貧弱なことであり且發表されたる研究論文又は探檢の報告等の如き貴重な材料も常に散佚勝であり研究上無駄な努力をさせられることが少くないことである。殊に本書の如き、ヤクート族關係の文献に至りては益々その感を強くするのである。然るに此の度ホ氏によつて、小冊子ではあるが或る程度まで其の不便さを救ふことが出来るようになったことは吾々大いに氏の勞を多としなければならぬと思ふ。本書はロシア地理學協會東シベリヤ部より同部紀要第四十八卷第一部として刊行されたのである。既にヤクート族に關する文献としては、メヂョフ氏「シベリヤ文献考」及びゼレニン氏が付した索引、プリクロンスキー氏「ヤクート族に關する文献」ヤフロフ氏「ヤクート族其他の文献」等が刊行されて居るが、此等の文献は動亂のために散佚したるもの多く、現にメヂョフ氏「シベリヤ文献考」の如き市價元價の十數倍を唱へられ、それも手に入れられれば僥倖とされて居る程である。ホ氏は以上の文献と氏の研究の傍ら蒐集せし文献とによつて編したのが本書である。本書を編するに當つて氏は異常なる注意を拂ひ、蒐集されたる文献は主としてロシアに於て發表されたる論文、報告等苟くもヤクート族に關するものは一切包含させたのである。尙氏がヤクート族研究家エ・カ・ペカルスキー氏の叢書及び目錄を参考せしことは本書をして益々その内容を充實せしめた譯である。本書は、一、歴史——土俗學文献一般 二、

ヤクトト族に關する文献一般 三、ヤクトト族研究家の傳記 四、信仰 五、俗話 六、言語 七、人類學 八、歴史 九、統計 十、醫藥、疾病 以上の如く文献を分類して居る。只遺憾とする處は氏は本書に於て著者順索引及び地理的分類を付さなかつたことと、ロシヤ以外の文献に關しては必ずしも完璧と云ひ得ないこと及び分類に於て數個所首肯し難き處があることである。(小島武男)

B. Ia. V'adimirtsov. Sravnitel'naia gram-
matika mongol'skogo pis'mennogo iazyka i
khalkaskogo narechia. Vvedenie i fonetika.

ベ・ヤ・ウラデイミルツォフ「蒙古文語と
カルカ方言との比較文典。」

ウ氏は現今ロシヤに於ける唯一の蒙古語學者で本書は氏の近業であつて、内容は主として蒙古語概論及び音韻のみを述べて居る。序論に於て氏は、既に西歐の學徒シユニミット、ポブロウニコフ、コヴァレウスキー、コトヴィツチの諸氏によつて蒙古語文典は屢々公にされて居るが其等は單にカルカ方言を扱つたもののみである」と説いて居る。氏は蒙古語發達史の項に於て古代、中世、過渡期、現今の諸時代に分ち更に其の時代に於て他民族との交渉によつて影響した處を詳細に説明して居り又現今各地に行はれて居る方言を精確に分類して居る等未だ此くの如き大著を見ないのである。又金石文、古文書を總括的に時代によつて分類し、其等に對して翻譯、研究論文等の文献を付して居り、音韻の部に於ては

單にカルカ方言との比較のみならず、四圍の諸民族の言語との音韻關係を説き、音韻史的にはウイグル、古蒙古語又はサンスクリット、ソグドの諸語と比較して居る。音韻の説明については全てに首肯し難いが(例へば t 及び d の混用の如き)材料の乏しいウイグル、ソグド語との比較研究の如き一朝一夕になしうるものではないと思ふ、この點氏の勞を大いに多とすべきであらう。(小島武男)

彙 報

日吉臺古墳發掘豫備報告

昭和六年五月三十一日(日曜日)晴。

午前八時東横線日吉驛前集合、塾長以下教員學生三十二名、他に塾員等二三の來會者あり。

發掘せんとする第一號古墳は日吉驛より東北方約二丁、慶應義塾敷地内なる丘上に所在する高さ約二米突、東西直徑約十三米突、南北直徑約十二米、周圍に約一米突内外の高さある中段を有する圓墳にして、例へば恰かも鏡餅を見るが如き形を呈せり。墳上には楮、棕櫚其他笹類雜草の繁茂を見る。

午前八時三十分頃より人夫二名を督して發掘に不便なる雜木雜草の除去作業を始む。次で愈々東方より西方へ向け約一米突の幅を保ちつゝ古墳に鉄を入る、學生も亦各々シャベル、スコップの類を手之を手傳ふ。掘ること一時間餘にして赤土(墟母層)現は